



財務編



融資要件とは、金融機関が過去の融資実績から導き出した成功の方程式です。従来の要件から読み取ると、「6年以上の業種経験がある分野で、開業資金の規模を2,250万円以内に抑え、かつ借入を総事業費の3分の2以内に収めて開業したケースにおいて、上手く行つた例」が多かったのであろう。」という推測ができます

金融機関が求める要件を表面的に捉えるのではなく、その背景を理解するようになります。金融機関の審査結果に対して、「要件を満たしているのなぜ?」と戸惑うことは少なくなります。

(2) 研究開発対象費用の1/2以下
対象は研究開発に必要な調査研究費、設備費、試験費等です。
また、助成金の交付を受けた事業が事業化されて成長が見込める場合に
は、この財団が500万円以内で株式を保有することにより更なる支援
を受けることも可能です。

- ・ 設備資金の最長10年→15年に緩和
- ・ 据置期間…
- ・ 業種経験…6年以上（緩和なし）
- ・ 力度…最大2年に緩和

今回の要件緩和は、一見誰でも利用しやすくなつた印象を受けます。しかし、金融機関の本当の考えは、「自己資金が無くても融資しますよ」ということでは無く、前記のように「突出したものを持つてゐるにも関わらず、これまで制度に合致しなかつた開業予備軍を丁寧に拾い上げますよ」ということだと思います。

■助成金の金額 次の金額のいずれか少ない方の金額になります。
※この助成金は決定と同時期に全額 支付されます。

◆実践论坛◆

『金融機関の考え方を理解するコツ』

尾川 充広（銀行融資プランナー協会 財務アドバイザー）

◆お役立ち情報◆

『「研究開発助成金」について』

今西 章（社労士 銀行融資プランナー協会 財務アドバイザー）

日本政策金融公庫の新創業融資制度の要件が大きく緩和されました。本日は、新創業融資制度を例にとり要件の中身から背景にある金融機関の考え方を読み取る方法を解説します。創業者に限らず、金融機関の審査ポイントが分からないと感じておられる経営者様は、是非参考にしてください。

事実これまでの創業融資は、他に少々の問題があつても、要件さえ満たしていれば、高い確率で審査に合格していました。事業実績を持たない独立開業者の審査は大変難解ですのでも、成功の方程式に当てはめて審査を行なうことは、極めて合理的かつ効率的です。

今回、このような要件を緩和する狙いは何でしょうか。

4月1日から「研究開発助成金」の募集が始まっています。この助成金は、三菱UFJ技術育成財団が、技術指向型の中小企業を育成する事業の一環として、ベンチャー企業が行う新技術・新製品等の研究開発費の一部を助成するというものです。

◆実践ノウハウ◆
金融機関の考

解するコツ

◆お役立ち情報◆
「研究開発助成金

今西 章

■ 応募期間
第1回目 .. 平成26年4月1日～

銀行融資プランナー協会マガジン

- 本情報の信頼性の向上には最善を尽くしていますが、その正確性を保証するものではありません。
 - 銀行対応に関するご相談、税制・補助金・助成金に関するご相談は、銀行融資プランナー協会正会員事務所にて承っております。お気軽にご相談ください。
 - コラムに関するご意見、ご感想、経営に関するご相談などございましたら、下記までお問合せください。

一般社団法人銀行融資プランナー協会事務局

大阪市中央区船場中央1-4-3-221:222号 (GPC-Tax本部内)

TEL : 06-6260-0022

MAIL : info@good-tax.jp

U R L : <http://www.bankfinancial-planner.com/>